

## 「原発やめろ」の大合唱 首相官邸前抗議行動に参加しました

10月5日夕方6時、東京・永田町の首相官邸前。毎週金曜日に行なわれている「首都圏反原発連合」の抗議行動に参加しようと地下鉄から地上に出ましたが、官邸がどちらやら方角が分かりません。歩いていると警察官が「デモに参加の方ですか？」と聞くので「ハイ」と答えると、「あちらに渡って歩道を進んでください。」と親切に案内してくれました。手馴れたものだと感心しながら行くと、官邸が見えてきて、その前の交差点でもう抗議行動の太鼓やシュプレヒコールが始まっていました。

歩道の半分ほどをロープで仕切って、参加者が数珠つなぎの列になって、にぎやかに声を上げています。どこかに入れてもらおうと歩いていっても、どこが最後尾なのか見当が付きません。適当なところで列に入って、スピーカーから流れる「ゲンパツ止めろ」「再稼動ハンタイ」に唱和しました。

すぐ横の地下鉄の出口からは、どんどん参加者が上がって来ます。道にはのぼり旗を付けた自転車隊が走り回り、通路を太鼓や拍子木、ギターなどを鳴らしながら、思い思いのゼッケンやプラカードをかかげた人たちが行き交います。自分のいる周辺の状態は分かりませんが、全体がどうなっているのか



は分かりません。あとで新聞で、この夜の参加者は3万5千人だったと知りました。

ちょうど8時になると、スピーカーから「終わります。ご苦労さんでした。」の声で、みんなゾロゾロと地下鉄に向かって帰りだします。毎週のことなので、日常生活の延長という感じです。もう涼しくなったけど、真夏の間は大変だったろうな、これから冬になったらまた大変だろう。原発をなくすまで粘り強く続く市民の運動、いま全国各地に広がってきています。

# 大雨をもたらした台風17号の被害

9月30日午後に襲来した台風17号は、鈴鹿市にも大雨を降らせ、局地的に大きな被害をもたらしました。

私はちょうど30日の午後に、市文化会館での催し物に参加していましたが、5時に終わって出ようとしたら、文化会館の前の道路がひざ上ほどにも濁流が押しよせる「川」となっていました。会館周辺や中央道路のあたり全体が冠水して通行不能となり、多数の市民が会館から出られず7時過ぎまで缶詰状態となりました。

ホールで待機する人たちに、いまどんな状況なのかという情報は何も知らされず、テレビなどありません。会館事務所のパソコンから台風情報をプリントしてもらって配るなど、私も出来ることをしましたが、それ以上の情報は取れず、まるで「陸の孤島」でした。

## 飯野・神戸・河曲・玉垣など金沢川流域に被害

防災危機管理課でまとめた被害状況は、死者1人（平野町の水田地域の県道）、床上浸水30戸、床下浸水309戸、非住家の浸水被害80件、道路損壊115ヶ所、河川被害55ヶ所などです。

これを地区別に見ると、飯野地区（床上10戸、床下60戸）、神戸地区（床上6戸、床下107戸）、河曲地区（床上7戸、床下23戸）、玉垣地区（床上1戸、床下25戸）の被害が大きいのが特徴です。これらの地区は、千代崎に注ぐ金沢川の流域であり、金沢川はまだ改修が途中までという状態で、金沢川的能力をオーバーした雨水が上流であふれたのだということが分かります。

## 水害対策も、地震・津波対策とともに重要

白子地区も被害がありました（床上4戸、床下37戸）が、かつて水害常襲地帯だった地域も、近年は排水ポンプ場や雨水貯水池などの施設整備が進んで被害は少なくなっています。それと比べても、金沢川流域は対策が遅れていると言わねばなりません。今回体験した水害の恐ろしさを、これからの対策によって防止する計画が求められます。3.11以後、地震・津波対策が前面に出ていますが、毎年ある台風・水害も重視していかなければなりません。

# 鈴峰消防分団、全国操法大会で健闘



全力で競技した鈴峰チーム

10月7日に東京・有明で行なわれた全国消防操法大会に、三重県代表として参加した鈴峰分団チームは、自己最高タイムの42秒台を出し、「小型ポンプ」23チーム中7位という成績を上げました。春からのきびしい訓練を重ねて、トップレベルの健闘をした選手と団員の皆さんに、心から「ご苦労様」と申し上げます。

## 日本のお金持ち182万人・世界第2位

毎年、世界の富裕層について調査をしている「ワールドウェルスレポート」によると、2012年の世界の富裕層人口は、約1100万人とのことです。「富裕層」の定義は、不動産や消費財などを除く「金融資産が100万ドル（8000万円）以上を保有する者」です。世界第1位はアメリカで約306万人、第2位はなんと！日本で約182万人もいるのだそうで、第3位ドイツの95万人を大きく引き離しています。しかも日本は昨年より8万人も増えたというのです。とても実感がわかない数字です。私の周りにそんな金持ちはいませんし、鈴鹿市に何人いるのか想像もつきませんが、どこかに実際にいるのです。

## 一方では生活保護受給者が212万人を超える日本

一方でマスコミは毎日のように、生活保護が155万世帯、212万人を超えたことを伝えています。こちらの数字は、日々の相談などを通じて実感をもって受け止められます。まさに日本が世界有数の「格差社会」になってきたということです。この上に金持ち減税、消費税などの庶民増税を進めようとする政治が、いかに異常で間違いであるかは、誰の目にも明らかです。

## 秋の鈴鹿市後援会バス旅行に行きませんか？

とき 12月2日(日) 会費 5500円(昼食・入場料など込み)  
行先 犬山市の犬山城・明治村(現地ガイド案内あり)  
申し込み・問い合わせは、市議団・森川・石田まで

ずいそう



## ヒーロー待望論の危うさ

民主党の政治はまったく行き詰まり、かといって自民党に戻ってほしくないという国民の不満と不信が高まる中、「維新」の橋下氏らを「第三極」として持ち上げる動きに一定の支持がある。この「橋下現象」などをどう見るかについて、「派遣村」などの地道な活動をしている湯浅誠氏が、「ヒーローを待っていても世界は変わらない」（朝日新聞出版）という著書を出した。以下はその要旨。

### 「切り込み隊長」＝「強いリーダーシップ」

社会全体に停滞感や閉塞感が広がり、仕事や生活に追われて余裕のない人が増え、自分が正当に報われていないという実感から、「既得権益」への許せないという怒りが高まる。そこに切り込む「切り込み隊長」＝「強いリーダーシップ」が待ち望まれる。悪人vsヒーローという構図である。この悪人探し&ヒーロー探しが、近年の「民意」を特徴づけている。

また「政治不信」はこれまでも根強くあったが、それは個々の政治家や個々の政党のスキャンダルや体質への批判であった。それがこの間、急速に「政治システムへの不信」に質が変わってきた。議会制民主主義や既成政党そのものがダメだとなってきた。そこを橋下氏がパッと一言で言語化し、「決められない政治」という争点化が支持を得ているのである。

### 代行するヒーローではなく「自分たちで決める」

湯浅氏は、はっきりと議会制民主主義や政党政治を擁護する側に立つ。民主主義は「面倒くさくて、うんざりして、そのうえ疲れる」が、だれかに「決めてくれ」では、また裏切られる。人々が自分たちの願いを、代行するヒーローに求めるのではなく、「自分たちで決める。そのために自分たちで意見調整する」ことを引き受ける民主主義に転換していく。社会参加、政治参加のためには、時間と空間、工夫と仕掛けが必要である。ヒーローを求める気持ちの奥にある焦りや苛立ちに寄り添い、それに向き合って一緒に解決していこう。いまま湯浅氏は現場から模索を続けている。